

外国人向け舟運パックツアーの実現可能性

芝浦工業大学 学生会員 ○上田 大雅
芝浦工業大学 フェロー会員 遠藤 玲

1. 研究の背景と目的

江東内部河川は、江戸時代の頃は観光船などで賑わい、江戸庶民の粋な遊び空間として栄えていた。しかし、明治時代からの工業化に伴う水質の悪化などにより、徐々に魅力を失っていった。ただ、これらの河川も、近年は水質が改善してきており、江東内部河川やその周辺地域の魅力を再活用した舟運ツアーの開発が求められている。

また、日本に訪れる訪日外国人の数はここ5年で1.5倍に増加している。2020年には東京オリンピックも控えており、政府はこの年の訪日外国人数の目標を4000万人としている。この目標の達成のためには、まだまだあまり注目をされていない観光資源としての江東区内部河川を用いた外国人向けのツアーの開発は有効であるといえる。

本研究は地域の持つ活性化資源を活用し、文化体験と舟運を組み合わせた外国人向けのパッケージ型ツアーを開発し、その実現可能性について検討するものである。

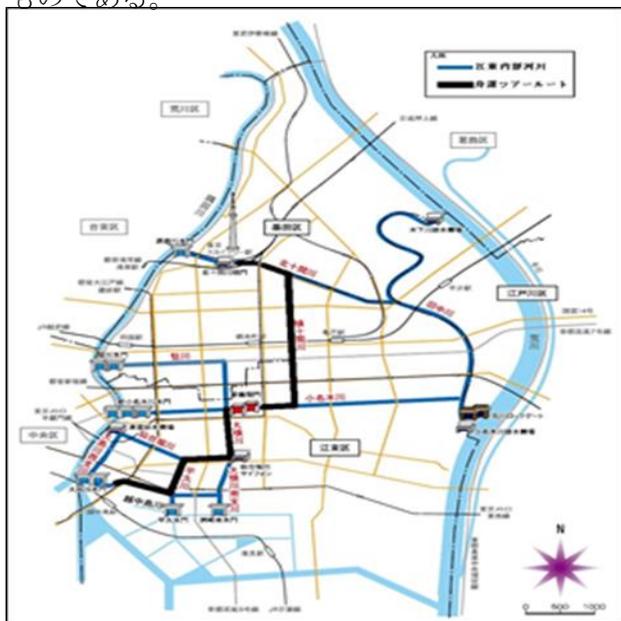


図1 ツアーの経路

2. 研究のながれ

本研究では、先ず舟運ツアーの企画、このツアーに関するアンケートを行ってツアーの需要を調べる、という流れで研究を進めた。

2.1 パッケージ型舟運ツアーの企画

本ツアーで用いるツアー経路や船の選定のため、実際に船に乗り経路に近いルートを航行した。そして、日本に在住している外国人にヒヤリングを行い、文化体験や和菓子の中で、外国人の興味があるものをピックアップし、アンケートの選択肢の中に盛り込んだ。

2.2 アンケート

企画した舟運ツアーに関して、実現可能性を検討するために需要調査アンケートを実施した。この需要調査アンケートの内容としては、国籍や年齢、性別などの個人属性に関する内容、ツアーに対する興味の有無や、文化体験等の項目への興味の有無、ツアー価格意識などの内容とした。

2.3 アンケート手法

今回の需要調査アンケートにあたっては、3パターンのアンケートを作成した。舟運ツアーのみの場合、文化体験のみの場合、舟運と文化体験のパッケージ型で用意をした。それにより、支払い意思額の差額がどのようになるかを見る目的である。

それぞれのパターンで対面インタビュー式、オンライン回答、紙を配布して記入いただいてから回収という手段で回答を頂いた。

2.4 需要調査アンケートの実施

2018年11月から2019年1月までの間に、東京スカイツリー周辺、秋葉原、渋谷にて需要調査アンケートを実施した。対象は英語を理解、使用できる外国人に限り、アンケートを行った。渋谷以外では3パターンのアンケートを1人1パターンずつ、渋谷では1人で3パターンすべてを回答していただいた。その結果、全体で153サンプル回収することが出来た。そのサンプルの内訳は、舟運のみのパターンで50サンプル、文化体験のみのパターンで53サンプル、パック型のパターンで50サンプルとなった。

3. 需要調査アンケートの分析結果

舟運ツアーをパッケージ化することによって、パッケージ化しないものとの差がどの程度生まれてくるかを検討した。支払意思額のデータからツアータ

キーワード 舟運, パッケージ型ツアー, 江東内部河川, 訪日外国人

連絡先 〒135-8458 江東区豊洲3-7-5 芝浦工業大学工学部土木工学科 Tel:03-5859-836 mail:ah14212@shibaura-it.ac.jp

イブや様々な個人属性毎に求めた平均値を比較することによって、個人属性パターン別支払い意思額の違いを割り出す。

ツアーへの参加希望者の、それぞれのパターンへの支払い意思額の平均額を比較する。舟運のみのパターンへの平均支払い意思額は 2939 円、文化体験のみのパターンへの平均支払額は 3457 円であった。

これに対し、舟運と文化体験のパック型の場合の支払い意思額の平均額は 6967 円であった。舟運のみと文化体験のみの平均額の合計よりも、パック型の平均額の方が 571 円高くなった。

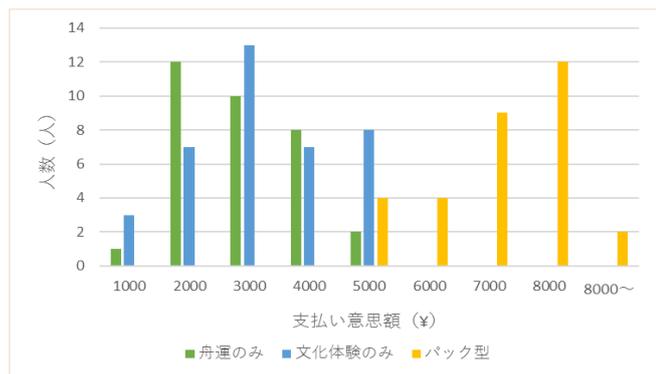


図2 参加希望者の支払意思額ヒストグラム

次に、3パターンそれぞれの参加希望の割合を比較する。舟運のみの場合の参加希望の割合は 70.0% となり、文化体験のみの場合の参加希望の割合は 71.70% となった。これに対し、パックツアーの方の参加希望の割合は 69.6% となった。この結果から、それぞれどのパターンでも参加希望者の割合に大差は無いことが分かった。

以上 2 点の理由から、文化体験と舟運のパックツアーが好ましいという結果を得た。

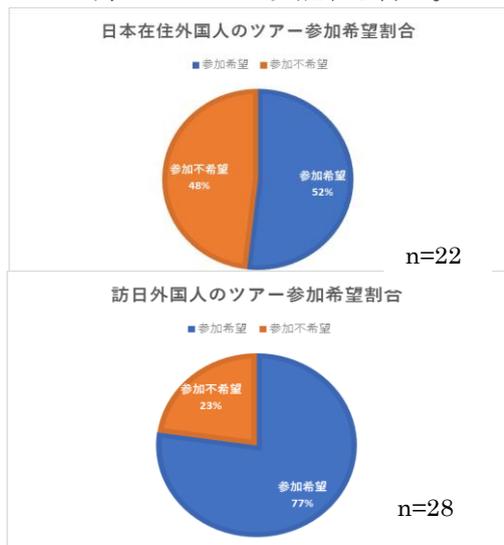


図3 それぞれのツアー参加希望者の割合

さらに、ターゲット層についての考察をする。3パターン全体の回答の中で、日本在住の方は 85 人、

日本在住でない方は 78 人であった。その中で、パックツアーのアンケートにおいて、日本在住の方は 28 人、日本在住でない方は 22 人であった。そしてその中で、日本在住者の中でのツアー参加希望者の割合は 52% であったのに対し、日本在住でない人の中での参加希望者の割合は 77% であった。

また、パックツアーのパターンの中での、参加希望者の支払い意思額の平均値は日本に住んでいない方は 7166 円であった。それに対して、日本に住んでいる方の平均値は 6615 円であった。以上の結果により、訪日外国人をターゲット層にすることが好ましいと言える。

そして、年齢ごとの参加希望割合、支払い意思額をグラフに表した。この二つの結果を照らし合わせると、20代と30代の方が支払い意思額と、参加希望率を総合すると、ターゲット層として好ましいということが言える。

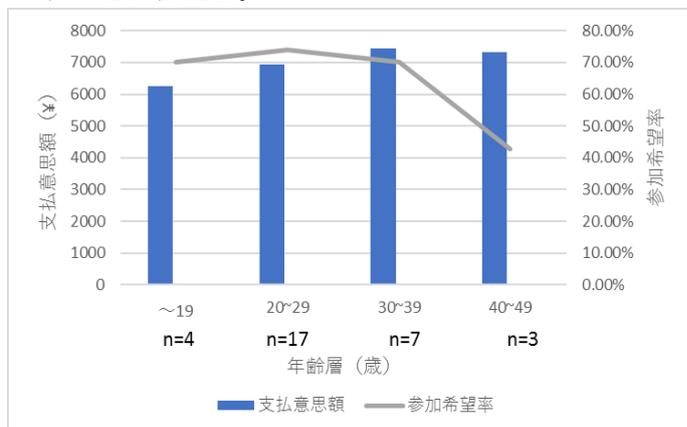


図4 年齢層別の支払意思額と参加希望率

4. まとめと今後の課題

アンケート調査の結果から、舟運と文化体験のパック型ツアーで、ターゲット層は 20 代、30 代の訪日外国人に絞ることで最も実現可能性が高くなるという結果を得た。

この結果から、より詳細なツアーの内容を設定し、ツアーを開発していく必要があると言える。そして、社会実験を行い、その結果を踏まえ、課題を解決して実現を目指していく必要がある。

参考文献

- ・東京都建設局河川部, 江東内部河川通航ガイド, 平成 24 年 5 月
- ・田島卓昌, パッケージ型舟運ツアーの実現可能性 第 4 5 回関東支部技術研究発表会, 2018 年